

## 社会資本整備に対する住民の欲求構造の基礎的考察

国土交通省国土技術政策総合研究所 正会員 青木俊明  
 国土交通省国土技術政策総合研究所 藤本 聡  
 内閣府沖縄総合事務局北部ダム事務所 山下武宣

### 1. はじめに

近年、政策評価の必要性が叫ばれている。評価階層を、政策達成度を評価する際の評価レベルと定義すると、適切な政策評価を行うためにはその設定と構成要因の選定が重要になる。指標間の相対的重要度も重要である。しかし、これまでに、それらに関する学術的知見は乏しく、学術的根拠に基づいた政策評価例も極めて少ない。そこで、本研究では、アウトカム指標を用いる政策評価研究の第一歩として、人間の欲求構造に関する既存理論に基づいて社会資本整備に対する住民の欲求構造を整理することを目的とする。評価階層のイメージを図 - 1 に示す。

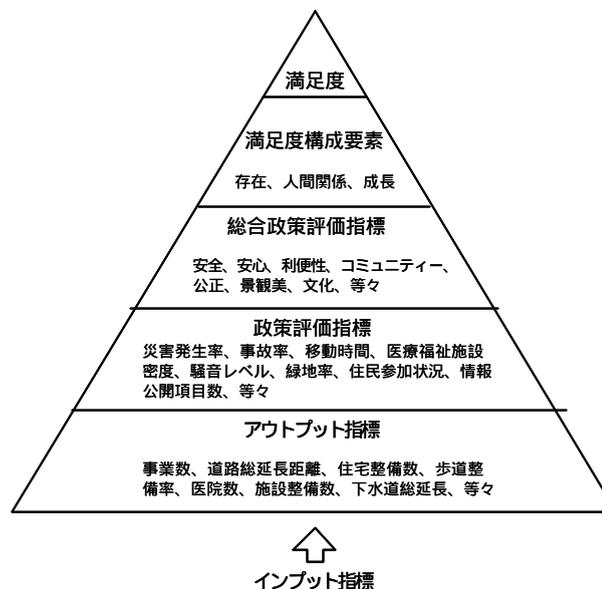


図 - 1 政策評価の評価階層の例

### 2. 人間の欲求構造に関する既存研究

人間の欲求構造は心理学の動機付け分野で研究されてきた。動機付け研究は2つに大別できる。動機付け内容を対象とした欲求説と動機付けの過程に着目した過程説である。社会資本整備の評価では住民の欲求対象が重要であるため、欲求説の代表的理論を概説する。

まず、Maslow の欲求階層説<sup>1)</sup>が挙げられる。欲求階層説では、人間は常に成長を望むというメタ欲求の存在を前提とし、人間は生存に関する欲求から充足を望み、段階的に発現する欲求を順次満たし、最終的には自己実現を望むとしている。この理論は多くの研究に影響を与えたが、実証的妥当性に欠け、欲求発現の個人差及び文化差を考慮していないため、批判も多い。

批判を鑑み、欲求階層説を修正したのが ERG 理論<sup>2)</sup>である。ERG 理論では欲求を「存在のための欲求」「人間関係に関する欲求」「人間らしく生きるための成長の欲求」に分け、各欲求の同時発現性や可逆性も仮定した。一方、Herzberg は衛生要因と動機付け要因からなる2要因説<sup>3)</sup>を提案した。前者は行為に外在する要因であり、その非充足が不満の必要条件となる。後者は行為に内在する要因であり、満足の十分条件となる。2要因説は概念の不明確さや実証性の弱さへの批判も多く、理論的枠組みの脆弱さは否定し難い。

他にも、McClelland の達成動機説<sup>4)</sup>も挙げられる。これらは欲求の階層性を仮定している点で相互に類似しており、欲求発現の社会状況を考慮していないという共通の批判もある。全ての個人または集団の欲求発現を同一のメカニズムで説明することは困難だが、その概略的説明は可能である。すなわち、欲求発現がある数式で表現された場合、同一のパラメーターセットで全ての欲求発現を説明することは困難だが、類似の社会的文脈の中での欲求発現を同一の関数系で表現することは一定の妥当性を持つと思われる。

### 3. 社会資本整備における住民の欲求構造

前述の理論で明示的に社会資本整備を扱えるのは、欲求階層説と ERG 理論である。社会資本整備への二ーズを考える際、欲求発現の不可逆性を仮定することは難しいため、主に ERG 理論に即して考察する。

キーワード：欲求階層説、ERG 理論、住民二ーズ

連絡先 〒305-0804 つくば市大字旭1番地 TEL 0298-64-2211, FAX 0298-64-2547, aoki@pwri.go.jp

ERG 理論が仮定している 3 要素の中で社会資本整備と密接な関係を持つのは「存在の欲求」「人間関係に関する欲求」である。これらは、欲求階層説の「生理的欲求」「安全の欲求」の和集合及び「社会的欲求」と「自尊の欲求」の和集合に相当する。前者には身体の安全に関する欲求、生活の安心に関する欲求、利便性に関する欲求の多くが含まれるため、社会資本整備に対する住民の欲求の多くは「存在の欲求」に含まれる。後者には「公平性の欲求」「公正さの欲求」等が含まれる。

欲求階層説に倣えば、欲求は生活上のマイナス面をゼロにし、ゼロをプラスにする順序で発現する。そのため、災害や事故等から身体を守る「安全の欲求」が最初に発現する。なお、「安全の欲求」は物理的要因による外傷への不安を解消する欲求と定義する。一定の安全性が確保された後に「生活の安心に関する欲求」が発現する。これは非物理的要因に対する不安を解消する欲求と定義する。

安全がハードの性格の強い欲求とすれば安心はソフトの性格の強い欲求と言える。これらは主に生活上のマイナス面からゼロに関わる部分の欲求と言える。また、主にゼロからプラス面に関わる欲求として「利便性の欲求」がある。例えば、移動の利便性や余暇施設の存在である。欲求説に従えば、これらの基本的欲求が一定程度満たされた後に真善美に関する上位欲求が発現する。

欲求発現モデルを図 - 2 に示す。ERG 理論では 3 要素を考えるが、具体的な整備内容との関係を考えて各要素は独立的な小要因から成ると思われる。各小要因が同時期に同程度の強さで発現することは少ないと思われるため、それぞれ異なる時期に発現することになる。これは欲求階層説の論理を ERG 理論に組み入れた概念である。すなわち、3 要素を構成する小要因も段階的、かつグラデーション的に発現すると考える。

日常生活を例にこれらの概念を考える。家裏の崖が崩壊の危険にある時、道路整備を望む住民は少ないだろう。家族に病人や高齢者がいる場合、医療福祉施設の整備以上に、空港や高速道路の整備を望む住民も少ないだろう。商業地から遠くに住む住民で交通網の整備以上に景観整備を望む人は少ないだろう。社会資本整備がシビル・ミニマム以下の時に事業の透明性を望む住民も少ないだろう。欲求説の主張することは、欲求の発現には順序があり、それは状況依存的であるということである。

このことを加味して政策評価を鑑みた場合、評価者の置かれている状況または評価者が属する社会の社会的価値観を加味した評価指標の重み付けが重要になる。社会的価値観別の指標の重要度を考えずに指標を計測しても、計測結果の意味を十分に理解することは難しい。

#### 4. おわりに

現在、満足度に影響を与える要因として 1)整備レベル、2)事業実施手続き、3)相対的剥奪（社会的比較）4)行政に対する住民の態度、5)地域特性（地域固有の社会的価値観）が考えられている。これらの要因の重要性は状況依存的に変化することから、今後、政策評価の結果を適切に解釈するためには、1)前述の影響要因の作用環境を整理、2)作用環境毎に各影響要因の影響力を把握、3)具体的な欲求要因（前章の小要因）と前述の満足度影響要因の関係解明、が重要な課題となる。

<参考文献>

- 1) Maslow, A.H. : A theory of human motivation, Psychological Review, 50, pp.370-396, 1943
- 2) Alderfer, C.P. : An empirical test of new theory of human needs, Organizational Behavior and Human Performance, 4, pp.142-175, 1969
- 3) Herzberg, F. : Work and the nature of man, World, 1966
- 4) McClelland, D.C. : The achieving society, Nostrand, 1961

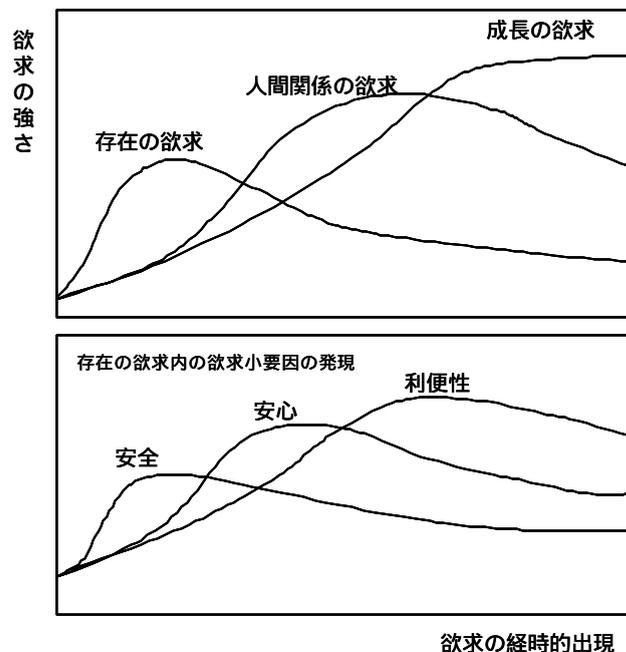


図 - 2 欲求発現メカニズムのイメージ